



地 域 の 皆 様 と と も に

# 西山かずみ

## 市議会活動報告

会報：第13号

いわき市議会／政策総務常任委員会 委員長  
議会改革推進検討委員会 副委員長  
志帥会（しすいかい） 総務会長  
自民党いわき総支部／会 計



討 議 資 料

★発行／いわき市議会議員 西山 一 美 〒970-8026 いわき市平字愛谷町3丁目8-1 TEL.0246-25-2141

### ごあいさつ



新年度を迎え、野山は一面新緑となり春本番を迎えました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、私は昨年のいわき市議会議員選挙におきまして、多くの皆様のお支えにより、引き続き、市議会議員として活動をさせていただくこととなりました。大変ありがとうございました。

2期目となる今期は、市政の総合計画、危機管理、財政運営、市税、観光、都市交流文化・スポーツ、消防、選挙及び監査事務などを所管する「政策総務常任委員会」委員長として、また、議会改革や議会の活性化を通して、市民の皆様からの負託に応えるため設置された「議会改革推進検討委員会」副委員長として、議会の行政に対する監視・けん制機能の充実や議員の審議・政策提言能力向上などに関することについて、市政進展のため委員の皆様とともに協議・検討しているところです。

まだまだ、日々勉強中ではありますが、いわき市内で物やお金を生み出す政策を提言し、それを基に市内で消費することで、「モノ・金を市内で循環させる」、いわゆる「市内完結型社会の構築」を大きな目標に掲げ、市民の皆様のための議員活動をひたすらに展開していこうと考えております。

平成29年2月定例会におきまして、「新・いわき市水道事業経営プラン」や「イノベーション・コースト構想」そして「本市における農業・農村振興」などの重要課題について一般質問をいたしましたので、ご報告させていただきます。

### いわき市の水道管漏水対応の実績について

漏水対策については、漏水率ゼロに向かって継続的に事業を実施してきたと思うが、震災後の漏水対応の実績は。

【答弁】 年間を通した定期的な対応は、使用水量の少ない深夜、延長3キロメートルから5キロメートルの調査範囲を設定して漏水の有無を調べるための流量測定を行い、その後漏水探知器などを用いた調査により漏水箇所を特定し修繕を行っている。件数は、平成25年から27年の3年間の平均で年間約230件となっている。また、突発的な漏水などは随時修繕を行い、その件数は3年平均で年間約470件となっている。合計年間約700件の修繕を行っている。

### イノベーション・コースト構想(水産分野)について

震災以前、栽培漁業や水産資源・海洋漁業・漁場環境など、様々な活動を展開していた県水産試験場は小名浜にある。東日本大震災や第一原発事故により大きな被害を受けたが、現在、水産業の復興・再生に向け、水産試験研究拠点整備事業として動き出しているとのこと、その進捗状況は。

【答弁】 事業主体の県によれば、平成28年5月に基本設計・実施設計にかかる公募型プロポーザル方式による募集手続きを開始し、8月に審査結果を公表。現在は各種設計業務を実施していると聞いている。平成29年度末には建設工事に着手し、平成31年度の供用開始を目指し、整備を進めている。

### 本市農業の現状について

本市の農業は、全国的な課題である担い手不足と耕作放棄地の問題など複合的な課題があるが、現状について伺う。

【答弁】 2010年と2015年の農林業センサスデータを比較すると、農家戸数は7,823戸

から6,248戸の20.1%減。経営耕地面積は6,210haから5,323haと14.3%減となり、さらには、農業就業人口の65歳以上の占める割合が70.2%と厳しい状況におかれている。



平成29年2月定例会  
一般質問 9 回目の登壇！

### 機構集積協力金交付事業について

ほ場整備を実施している地区においては、農地の集約が進むとともに地域集積協力金に取組める可能性が高くなると聞かすが、ほ場整備のメリットは。

【答弁】 農地の大区画化に合わせ農道・用排水路を一体的に整備することにより、作業効率が向上し、営農労力の削減が図れる。また、地域農業を担う経営体を育成し経営体への農地集積を進めることで経営規模拡大や生産コストが削減され、安定した農業経営が可能となる。さらに、ほ場整備の際、機構集積協力金事業に取組むことで、農地集積の機運が高まり加速化につながるものと考ええる。